

VOCABOW 志望理由書・自己推薦書 week3

添削と解説

名前	Sample3
ID	
e-mail	
開始日	

【添削】

【志望理由書】

臨床薬剤師になりたいと思ったきっかけは、父が急性骨髄性白血病になって抗がん剤治療を受けたことだ。治療の辛さや副作用などに不安な時、薬剤師がわざわざ来てくれて薬の説明をしてくれたり、副作用がやわらぐように薬の提案をしてくれたり、~~寄り添ってくれたことが~~心強かったと聞いて、~~薬剤師に憧れるきっかけになり、私も薬剤師になっ~~て患者の負担を減らし安全に治療できる環境づくりをしたいと思うようになった。

特に興味があるのはチーム医療である。~~チーム医療は~~病に苦しむ人のために1つの職種だけでは対応困難なことも、~~医療スタッフが互いの専門性を尊重して~~、最大限の能力を引き出し合うことによって最善の治療を行う~~医療現場の取り組みである。その様子は、~~高校2年生の時に、加東市民病院で33日間のインターンシップに参加し、薬の調剤補助や病棟業務補助を体験した~~ときに垣間見ることができた。~~医師から肝機能が低下している~~けど~~がA薬とB薬のどちらが良いかと聞かれて、~~〇〇だから慎重に言葉を選びながら~~B薬が良いと思うと意見を述べている姿や、看護師から~~患者の病状を聞いて、~~き薬の~~変更~~を~~変えるか話し合っ~~て~~検討する姿などを~~間近で見た。~~医師とは違った視点治療の視点から患者と接しているが、つまり薬剤師は薬が効いているか、副作用はないかという視点から患者と接している。薬剤師は医師と異なる視点から医療をより確実にするため、チーム医療の効果をより確実なものに中で活躍している。私~~はも、~~専門家として意見~~できを述べ、他の医療従事者からも信頼される薬剤師を目指したいと思った。

貴学では、地域の課題に医学部・看護学部・薬学部33学部共同で取り組む「医薬看連携地域参加型学習」があり、他学部の学生との関わりを通して医療の基礎を学べる。また、~~病院薬剤学等、薬の副作用などに関わる臨床と直結した~~研究テーマを展開する~~病院薬剤学等などの臨床と直結した~~科目も豊富だ。副作用に苦しむ患者のために、薬の組み合わせを変えるなど、より効果的で安全な薬物治療法を現場から提案できるよう研究したい。~~他方で、~~超高齢化社会では、狭義の医療以外にも、病気の予防や健康サポートなど薬剤師が必要になるケースが拡大する。しっかり研鑽して、幅広い立場から人の健康に貢献したい。

【自己推薦書】

私の長所は、自主的に行動できることだ。高校入学時から、薬剤師に漠然とした憧れがあったので、薬剤師や医療について知ろうと、日本学術振興会が主催する「ひらめきときめきサイエンス」の徳島大学薬学部「薬剤師体験」に参加したり、希望者のみが参加する高校のインターンシップで3日間の市民病院薬剤部での就業体験をしたり、高校から10名のみが参加できる高大連携事業で、神戸大学大学院医学研究科IPS細胞応用医学分野研究室において講義を聴いたり、や座談会に参加したりした。これらは、いずれも、将来自分が漠然とになりたいと考えている職種が薬剤師とはどんなものか、医療の中でこれから求められるものは何か、を考えていたから知るために、誰からに指示されて参加したのではなくる前に、即座に自分から手をあげて参加する機会を得ることができたものであった。

いずれも積極的に動くことにより実現したものであり、受身では決して得られなかったであろう。他方で、短所は、他人の態度に敏感になりすぎる傾向が強いことだ。たとえば、部活動では家庭科研究会に所属し、文化祭やイベントでは、たくさんの作品をチームで協力して作りあげる必要があったが、先輩や後輩、同級生や顧問、同級生たちとの反応が気になって関係など、連絡や段取りがうまくなかなか調整できないこともあった。それでも調整に手間取ると、他人に期待するよりせず、自分から先に動いて、周りにいい影響を及ぼそうとする。とくに与えようとして、先輩がや顧問と連携がうまくいってなくてとれないときは、その傾向が強くなる。その結果、伝達事項が直前になら遅れたり、変更になったりして、かえって進行が遅れることが多く困ることが多かった。同級生の仲間とどうしたらスムーズにコミュニケーションを取れるのか、同級生の仲間や話合い、顧問、や先輩とも話をした。試行錯誤したことで、自分たちの代が中心になって最上級生になってからは、ようやく後輩や顧問とも連携を密にしつつ、先をみて行動することができるようになった。それぞれの立場を尊重することで、チームで何とか協力体制を整えることができた。ただとはいえ、他者の反応に敏感すぎる敏感なところは、チーム医療の中で全体に目配りできることにもつながるので、チーム医療という場をイメージすると、短所とばかりは言えないかもしれない

【week3 の評価と解説】

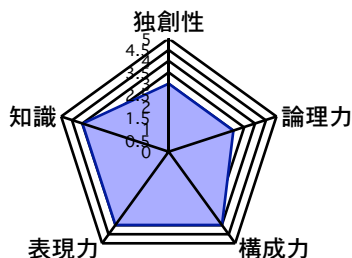
だいたい大枠は出来てきたと思います。普通なら、これで完成とすることも少なくないのですが、全体として形は整っているのですが、内容的には、もう少し検討しても良いと思います。

そう感じる理由は、金田さんが挙げるエピソードがやや一般的すぎて、独自性・迫真性が乏しい感じがするからです。とくに、自己評価書の話は、そもそも部活動自体がよく取り上げられる内容なので、独自性を出しにくい、ということがあります。また、上級生・顧問との人間関係の難しさもよくあることなので、金田さん自身の個性が出にくいと思います。し

かも、いろいろ問題はあったけどうまく解決できた、という流れなので、関係の大変さの印象も薄い。というようなわけで、全体のお話しの迫力が今一つなのです。ということは、自己評価書として記憶に残りにくい、ということになります。

そういう傾向は、志望理由書も同じです。お父様が白血病になったのは大変な体験だったと思いますが、それはメインの内容ではなく、そこでの薬剤師の活躍ぶりが主題なので、大変な体験のわりには、あっさりした印象になっています。せっかく具体的エピソードを出すのなら、ある程度の劇的効果も必要でしょう。今更題材を変えるのが難しいというなら、エピソードの細部をもう少し詳しく書いて、具体性を高める必要があるでしょうね。添削では、とくにそのあたりを強調してみました。

独創性	3
論理力	3
構成力	4
表現力	4
知識	4
総合評価	B-/C+



【構成例】

【志望理由書】

臨床薬剤師になりたいと思ったきっかけは、父が急性骨髄性白血病になって抗がん剤治療を受けたことだ。治療の辛さや副作用などに不安な時、薬剤師がわざわざ来てくれて薬の説明をしてくれたり、副作用がやわらぐように薬の提案をしてくれたり、心強かったと聞いて、私も薬剤師にになって患者の負担を減らし安全に治療できる環境づくりをしたいと思うようになった。

特に興味があるのはチーム医療である。病に苦しむ人のために1つの職種だけでは対応困難なことも、医療スタッフが互いの専門性を尊重して、最大限の能力を引き出し合うことによって最善の治療を行う。その様子は、高校2年生の時に、加東市民病院で3日間のインターンシップに参加し、薬の調剤補助や病棟業務補助を体験したときに垣間見

ることができた。医師から肝機能が低下しているがA薬とB薬のどちらが良いかと聞かれて、慎重に言葉を選びながらB薬がいいと思うと意見を述べる姿や、看護師から病状を聞いて、薬の変更を話し合っって検討する姿など、医師とは違った視点、つまり薬が効いているか、副作用はないかという視点から患者と接し、チーム医療の効果をより確実なものにしている。私も、専門家として意見を述べ、他の医療従事者からも信頼される薬剤師を目指したいと思った。

貴学では、地域の課題に医学部・看護学部・薬学部3学部共同で取り組む「医薬看護携地域参加型学習」があり、他学部の学生との関わりを通して医療の基礎を学べる。また、病院薬剤学等、薬の副作用などに関わる研究テーマを展開する臨床と直結した科目も豊富だ。副作用に苦しむ患者のために、薬の組み合わせを変えるなど、より効果的で安全な薬物治療法を現場から提案できるよう研究したい。他方で、超高齢化社会では、狭義の医療以外にも、病気の予防や健康サポートなど薬剤師が必要になるケースが拡大する。しっかり研鑽して、幅広い立場から人の健康に貢献したい。(797字)

【自己推薦書】

私の長所は、自主的に行動できることだ。高校入学時から、薬剤師に漠然とした憧れがあったので、薬剤師や医療について知ろうと、日本学術振興会が主催する「ひらめきときめきサイエンス」の徳島大学薬学部「薬剤師体験」に参加したり、希望者のみが参加する高校のインターンシップで市民病院薬剤部での就業体験をしたり、高校から10名のみが参加できる高大連携事業で、神戸大学大学院医学研究科IPS細胞応用医学分野研究室において講義や座談会に参加したりした。いずれも、将来自分がなりたいと考えている職種がどんなものか、医療の中でこれから求められるものは何か、を知るため、誰かに指示される前に、自分から手をあげて参加する機会を得たものであった。

他方で、短所は、他人の態度に敏感になる傾向が強いことだ。たとえば、部活動では家庭科研究会に所属し、文化祭やイベントでは、たくさんの作品をチームで協力して作り上げる必要があったが、先輩や顧問、同級生たちの反応が気になって、連絡や段取りがなかなか調整できない。調整に手間取ると、他人に期待せず、自分から先に動いて、周りに影響を及ぼそうとする傾向が強くなる。その結果、伝達事項が遅れたり変更になったりして、かえって進行が遅れる。どうしたらスムーズにコミュニケーションを取れるか、同級生の仲間や顧問、先輩とも話をして試行錯誤したことで、自分たちが最上級生になって、ようやく後輩や顧問とも連携を密にしつつ、行動できるようになった。とはいえ、他者の反応に敏感なところは、全体に目配りできることにもつながるので、チーム医療という場をイメージすると、短所とばかりは言えないかもしれない。(697字)